

---

# BABYRON 第2部

みづき海斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

BABYLON 第2部

### 【Zコード】

N4758M

### 【作者名】

みづき海斗

### 【あらすじ】

感情が高ぶると空気中にあるリチウムやウラン、重酸素などの核物質を吸収し自ら『核熱源』となり周りの物を『燃やしてしまつ』という能力を持つ貞。その謎を握るのが『混乱<sup>バベル</sup>』という言葉 - - -

近未来SFファンタジー『BABYLON』第2部スタートです。

## 1・ゲーム（前書き）

BABYLON 第2部です。ちなみに第2話はまだプロットも大体しかたつてません  
(自爆(ー￥)。。。)

## 1・ゲーム

あの『事件』から半年程経っていた。浅井 啓警部は刑事に昇進していた。しかし実際はS.P.で、今、ある要人の警備をしている。

スース姿にネクタイで、

「毎日暑苦しい。」

と、夏を迎えるながら呟く。

啓は都内にある自家のマンションへ、深夜、帰る度にそう呻いている。

一方、貢はといふと一日中クーラーの利いた室内でタンクトップ姿にGパンのまま、

「お帰り、啓。夕食買って来ておいたよ。」

ガラスのテーブルの上を指示す。

そこには、2人分の『オリジン弁当』の男爵コロッケ弁当。『値引き50円』としつかり赤いシールが貼つてある。

「どうも」

啓はネクタイと上着をとつた。「何してんの?」

「ん。携帯ゲーム。」

振り向きもせずにそう答えた。家にはP.C.も『アイ・パッド』もあるが、今の貢にとつては携帯ゲームの方が興味あるらしい。ここ数日、こんな調子が続いている。

「昼間、何してんの?」

「M A C の3Fで携帯ゲーム。」

ピコピコと指先を動かす。

「そう。じゃ、俺先にシャワー浴びてくるわ。」

「うん。」

貢は相変わらず携帯の画面を見つめたまま。

シャア・・・・・

温度設定を低めにして、啓はシャワーを浴びていた。

「俺、『警部』で良かったのになー。」

いつもの、のんびりした口調で呟く。「貢が羨ましいよ。」

啓はお酒をやらないタイプなので素早くシャワーを浴びると、Gパンに白いTシャツに着替え、冷蔵庫からミネラル・ウォーターを取り出した。

一気に飲み干し、

「はー、生き返った。」

白いタオルで髪の水滴を無造作に取る。

再び、15畳程のリビングへ姿を現すと、

「まだ、夕食食べてなかつたの?」

携帯ゲームに夢中な貢に声をかける。

「うん、今、『お宝』守るのに大変だから。」

「そんなに面白い?」

「・・・・・つづーか。」

貢は付いていないTVの前で初めて振り返り、「やる事ないじやん、俺。」

「そだねー。」

啓は苦笑した。

感情が高ぶると空気中にあるリチウムやウランを自ら『核融合』させ、周りのものを全て『焼いて』しまう、という貢の『体』の謎は未だ解けていない。

『Come Back See You .

そんな『全ての謎』を握っている貢(拓也)の『兄』拓未の動きを考慮して、SWAP(警視庁特別行動部隊)も防衛省も彼の行動範囲を限られたものにしていた。自然、『事件』への関与も少

なくなつた。

「貢、いつまでも遊んでないで、早く食事取りついぜ。」

テーブルの前で立て膝で啓がそう云える。

「ん・・・・じゃ、シャワー先に浴びてくる。」

「まだだつたの？」

「啓が帰るの待つてた。」

貢は立ち上がり、テーブルへと近づき、携帯を啓に差し出した。

「『お宝』盗まれちゃ困るから。」

につこり、と笑つて、「その間、『お宝』守つてて、啓。」

「仕方ないね。」

携帯を受け取り、既にシャワー・ルームへ向かつた貢に声をかける。

「俺、『一ゆーのやつた事ないんだけど。』

「とにかく、何処かからアクセスがあつたら、ぶちつゝと『』

キー  
押してプロファイール見て。そんで、敵か味方か区別するの。」

「そう。」

「そう。」

貢はシャワー・ルームに入つて行つた。

「俺、お仕事もう終わりなんだけど。」

ゲームの内容が内容なので、まるで政府要人をDPIしてゐる啓自身の『仕事』とだぶつてみえる。

『オリジン弁当』を田の前に、ミネラル・ウォーターを飲みながら、

「あ。これね。」

新しいアクセスがあつた。

『キーリセット』と押す。

「こんなのは1日中、やつてんの。」

敵だつた。削除キーを押して、相手を『倒す』。何処をどうしてゐるのか、アクセス数は10万を超えていた。「・・・・今夜

中、これやんの?」

また、アクセスが来た。

「はいはい。」

啓はミネラル・オーラーの続きを飲みながら、「今度はだーれ。のんびりした口調で呟く。

『プロフィール：H・N・BABYLON』

「・・・・・」

そう表示された。

「啓、夕食食べよう。」

シャワーを終えた貢が声をかける。

「貢。」

今度は啓の方が振り返らずに、「Jのゲーム、いつからやつてん

の?」「んー。3日前からかな?メール見たら面白いゲームがあるって

いう

内容だったから、そこにアクセスしてみたんだ。」

「そう。」

啓は突如黙った。そんな啓の様子に気付き、

「どうしたの、啓。そんなにハマる?」

「ハマるも何も。」

啓は振り返った。その目が細められる・・・「貢。お前、今、俺と同じ人

と守つて』るんだぜ。」

「はい?」

訳解らないという表情で貢が答える。「どういう事?」

時計の針はPM11:00を過ぎていた。

「俺が今の『人』の警護を始めたのが3日前。お前がゲームを始めたのも3日前・・・そこでどうしていきなり10万アクセス行くの。」

「・・・・・」

「そして」

彼は、そのH・N『BABYLON』からのメッセージを貢に見せた。

そこには、

『強いね、貢。ずっと見ていたよ。』

そう書かれていた。

「・・・・・」

啓は無言の貢に携帯を渡すと、「ちょっと『守って』くれない?

そして、ベランダの方へ行き、閉められた白いカーテンを左右に開き、ベランダへと出た。

12階下の路上を見降りる。  
そこへ、

……………

啓が持つ携帯が鳴った。

「もしもし」

彼はのんびりした口調で、「やつぱりあんたか。」

眼下には僅かな電柱の灯りしかない。

『待つてたよ、浅井 啓刑事が戻るの。』

その姿を探すが、暗くてもう解らない。

「何を今度は企んでる……貢を『仲間』に引き入れて。」

『ただのゲームじゃないか。』

くすくすと笑う声が聞こえる。『警部だけじゃ面白くないだろ? から、貢にもゲームに参加してもらってるだけ。』

「どうしたの? 啓。」

その会話に貢はベランダへ近づいた。

「来るな。」

啓は静かに言った。「お前はゲームを続けてる。」

「何事。」

貢は目を丸くした。

「貢、『お宝』を守るんだ。」

『そつこなくつけや。』

携帯の向こうで、BABYLON ハ木拓未の声が聞こえた。  
一人でもゲームに参加してもらわないとショーンは面白くない。』

「目的は。」

啓がそつと言つた時。

ジー ジー ジー ・・・・

携帯が切れた。

「・・・・・」

アンテナは3本立つていて。啓は、そのまま、警視庁への電話をかけた。

「あ、警視庁官？ちょっと富房長のHP増やしてくれる？俺も今すぐ邸宅に戻るから。」

それだけ言って、今度は啓の方が携帯を切つた。

そして、先刻まで来ていたスーシを黒いソファから掴み取る。

「出かけるの？啓。」

訳解らない、という表情で貢が尋ねる。

「ちよい、ヤボ用。」

素早く着替えながら、「貢は『BABYLON』の動きを監視していくけれど俺はちょっと出かけてくる。ちゃんと、飯食うんだぞ。今日は帰れないかもしれない……何か『動き』があつたらすぐに俺の携帯に連絡入れてくれ。」

「うん。」

それだけ言つと、  
「じやね。」

## バタン

重い玄関の扉が閉じられた。

啓は携帯に視線を戻し、先ほど啓が指示した『H · N · B A BYRON』の

プロファイルを見た。

そこには、『味方』の表示と『お宝と一緒に守りましょう。』の文字。

「・・・・」

啓は無言で『削除』キーを押した。しかし、すぐにまたアクセスがあつた。

H · N は『BABYLON』。

## 1・ゲーム（後書き）

3本小説をかかえてしましました（自爆）「J感想」、「J声援お待ちしております」vv

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4758m/>

---

BABYLON 第2部

2010年10月9日03時40分発行